

分野・専門名：英語学

試験科目：専門英文の日本語訳

【解答のポイント】

英語で書かれた統語論や意味論の専門的な文献の内容を正しく理解し、適切な専門用語を用いて日本語に訳す。

分野・専門名： 英語学

試験科目： 専門英文の日本語訳

【出題の意図】

英語で書かれた統語論や意味論の専門的な文献を日本語に訳させることにより、英語学研究を行うために必要となる専門英文の読解力を測定する。

分野・専門名： 英語学

試験科目： 一般言語理論

【正解・解答例】

I

(1)

- a. 値を持たない解釈不可能素性はその c 統御領域内に値を持つ解釈可能素性を探索し、両者が一致することにより、解釈不可能素性に値が付与されて削除される操作のこと。例えば、T の解釈不可能な ϕ 素性が主語の解釈可能な ϕ 素性と一致することにより、T の ϕ 素性に値が付与され、それに伴って主語の解釈不可能な格素性に主格の値が付与されるが、その結果、解釈不可能素性は削除される。
- b. 極小主義プログラム以前の付加に対応する操作で、集合を形成する通常の併合とは異なり、順序対を形成する非対称的な併合操作のこと。例えば、A を B に対併合すると、 $\langle A, B \rangle$ という順序対（または、 $[B A [B \dots]]$ という付加構造）が形成される。
- c. フェイズと呼ばれる統語体が完成した時点で、フェイズ主要部の補部が音韻部門と意味部門に転送され、フェイズ外からの統語操作が転送された領域にアクセスできなくなるとする条件。ただし、フェイズ主要部とその末端はアクセス可能である。一般に、 v^*P （外項を持つ vP ）と CP がフェイズであるとされているので、 v^*P が完成した時点で v^* の補部である VP が、CP が完成した時点で C の補部である TP が転送される。
- d. north や seaward のように、固定された基準を参照することで位置や方向を指示する方法。
- e. 言語表現や経験の理解の際に参照される知識、信条、慣習の構造。例えば、weekend という語を理解するには、七日で構成される週の構造を理解する必要がある。
- f. 概念的に近い関係が緊密な形式で表されるという特徴。例えば、X caused Y to die は X による行為が Y の死に何らかの形で関与したことを表すが、X killed Y は X による Y への働きかけが Y の死の直接の原因となったことを表す。前者では使役の概念と「死ぬ」という概念が cause と die という別々の語で離れて表されているが、後者では両概念が kill という単一の語で表されている。

(2)

a. 平叙文、疑問文、感嘆文、命令文などの節タイプのことで、補文標識、または分離 CP 仮説では Force 主要部にその情報が指定されている。

b. 存在数量詞としての any や副詞 ever など、否定文、疑問文、条件節などの非断定的文脈にのみ生起することができる項目のこと。これらの項目は、否定要素などの演算子によって c 統御されることにより認可される。

c. θ 理論において項と θ 役割の一対一の対応関係を定めたものであり、それぞれの項は 1 つ、そして 1 つのみの θ 役割を持ち、それぞれの θ 役割は 1 つ、そして 1 つの項のみに付与されるとする条件。

d. 一つの対象には一つの名前しかないと思いつく子どもの認知バイアス。名前を知っている馴染みのある物体（例えばボール (ball)）と未知の物体（例えばけん玉）を見せられ、Which is feep? と尋ねると、子どもは未知の語 feep が未知の物体の名前だと判断する。

e. Wallace Chafe により制作された台詞のない短い映画。果物を盗む少年と農夫の物語を、異なる言語の話者がどのように語るかを観察するために作られた。

f. 幼少期に繰り返し経験される、感覚と感情が強く結びついた場面の型。例えば、heartwarming などの表現に見られる AFFECTION IS WARMTH というメタファーには、親に抱きしめられることで温かさと愛情を同時に感じるという原初的体験が関与しているとされる。

(3)

a. T の位置を占める時制・一致の接辞が、下降して動詞と合体する操作。現代英語では本動詞が T に上昇できないため、拘束形態素である接辞のホストとなる本動詞に下降して合体する必要がある。

b. 等位構造において、1 つの等位項のみ、または 1 つの等位項の内部の要素を移動することを禁じる制約。ただし、移動がすべての等位項に対して全域一律に適用される場合は、この制約の違反とはならない。

c. 例えば、John is tough to please. のように、難易を表す述語が不定詞節を選択し、不定詞節の目的語の空所が主節の主語に対応する構文のこと。したがって、この文は It is tough to please John. のように書き換えられる。

d. 先行する情報が後続する思考に無意識に影響する心理現象。例えば、fruit という語の後に apple という語を提示すると、apple という語の処理が速くなる。これは、apple が表すものが、fruit という語で活性化される概念の典型に当たるためである。

e. 特定の音声特定のイメージと偶然を超えて結びつく現象。例えば、多くの言語において（あるいは、多くの言語の多くの話者にとって）、/i/は小ささと結びつく。teeny という語はその例である。

f. スキーマ（複数の形式または意味の共通点を抜き出した抽象的概念）の下位に位置づけられる、より具体的なスキーマ。例えば、baker, dancer, runner, eraser, slicer などの名詞からは「[V-er]=V する存在」というスキーマが取り出せるが、このうち baker, dancer, runner からは「[V-er]=習慣的に V する人」、eraser, slicer からは「[V-er]=V するための道具」という下位スキーマが見出せる。

II

(1a) の two meters long は long を主要部とする形容詞句であり、long を修飾する数量を表す名詞句 two meters は「度量句」と呼ばれる。(1b) very long, too long のように程度詞で修飾されたり、(1c) longer と比較級になることができる long は段階性を持つ形容詞である。long, wide, deep, old など基本的な形容詞がこの構文で使用可能なので意識されにくい、このように段階性を持つ形容詞が度量句を取るのは例外的で、多くの形容詞では (2a) *two pounds heavy のように非文法的となる。

原級では度量句を取ることのできない heavy も、(2b) のように比較級にしたり (two pounds heavier), 程度詞 too で修飾されたり (two pounds too heavy) すると、度量句を取ることができる。heavy も heavier, too heavy も何かとの比較でより程度が高いことを表すが、heavy が比較の対象となる特定の基準点を持たないのに対し、heavier, too heavy はそれよりも程度が上であれば真となる明確な比較の基準点が存在するという点で異なり、度量句は基準点との差を表す。

(3a) The watch is two minutes fast. の fast のように、形態的に原級であっても明確な基準点 (fast の場合は正しい時刻) との比較を表す意味で用いられる場合は、度量句を取ることができる。late も「遅い」ではなく「遅刻する」の意味であれば、(3b) ten minutes late (10分遅刻) のように言うことができる。

「短い」の意味の short は、heavy と同様に、比較級 ((4a) two inches shorter) や too で修飾される (two inches too short) と度量句を取ることができるが、原級では度量句を取ることにはできない。しかし、原級であっても「足りない、不足している」の意味であれば、(4b) He is two inches short. のように度量句を取ることができる。

(2b) two pounds { heavier / too heavy }, (3a) two minutes fast, (3b) 10 minutes late, (4b) two inches short では度量句の有無で形容詞(句)の意味は変わらないが, (1a) の two meters long では度量句の有無で long の意味が異なるという点でも違いが見られる。

分野・専門名： 英語学 _____

試験科目： 一般言語理論 _____

【出題の意図】

I

生成文法や認知言語学などの専門用語を解説させることにより、英語学研究を行うために必要となる一般言語理論の知識を測定する。

II

具体的な英語の表現について文法的観点から観察、説明する力があるかどうかを見る問題。特定の言語理論の枠組みを用いて説明することを求めるものではない。

